

北海道歌旅座

HOKKAIDO UTATABIZA

昭和の歌

コンサート

「愛の讃歌」

歌旅座スコープ

映像付き公演

昭和
今よりも少し
隣の人が近くに感じた時代
人は共に歌に酔い
歌に笑い 歌に涙した
今ここによみがえる
懐かしい歌の数々
さあ あなたの想い出を
迎えにきました—

うた・ピアノ
吉田淳子

2020
6月25日 木
開場 18:00
開演 18:30

藍住町総合文化ホール 大ホール

奥野字矢上前32-1
☎088-637-3344

前売 1500円 当日 2000円

主催 藍住町教育委員会 藍住町芸術文化鑑賞事業実行委員会

チケット取扱 藍住町総合文化ホール 藍住町立図書館 小山助学館・本店

北海道
歌旅座

「友のまち」をめざして

札幌市を拠点に、歌の種を直接手渡しする旅を続ける一座、それが北海道歌旅座です。

旅の始まりは2009年2月26日。10曲にも満たないレパートリーを携えてステージに立ったのが、春まだ遠く雪深き街、北海道夕張市でした。

「どんな小さな会場でも電源と雨や雪をしるげる屋根さえあればステージを作れるのだから、北海道のすべての180市町村(現在は179)に、歌を届けようじゃないか!」という熱い志を御旗に掲げた日でもあります。

当初、全道制覇は数年で達成できるものと目論んでおりました。いや、や、それがなかなか、どうして。やはり北海道は広い!! 生まれ育ったこの土地の広大さを、歌旅座メンバーはあらためて実感していく毎日。

すべての市町村での公演という目標には時間がかかりましたが、それでも着実に公演回数を重ね、そのステージを通して生まれた縁から、幾度も訪れる街がどれほど増えていったことか。そして、その縁は確実に人から人へと結びつき、新たな街へと広がり続け、今では北海道という枠を越えて、こうして日本全国の市町村に赴いて歌をお届けする旅が実現できるようになったのです。

歌旅座の公演には、三本の柱があります。ひとつが、ニッポンが輝いていた昭和の歌の数々。思わず口ずさんでしまう懐かしい歌謡曲や演歌・フォークソングまで。昭和の歌には当時の想い出を一緒に運んでくれる力強さがあります。吉田淳子のヴォーカルと、高杉奈梨子のヴァイオリン、ザ・サーモンズのコーラスと伴奏。会場がひとつになって華やかな時間が生まれます。



つぎに挙げたいのが、歌旅座オリジナルの楽曲たち。初めてお聴きになる方々にも吉田淳子が父と母を、そして故郷を深く詩う姿に必ず共感していただけると思っております。

最後の柱は、曲と共にステージに映し出される映像です。時代を思い起こさせる懐かしい光景や、北海道を中心とした美しく、時に雄々しい風景はステージを彩るもう一人の演者のようです。歌詞も同時に流れるので、どうぞ一緒に口ずさんでください。

これら三本の柱を織り交ぜて今日も北海道歌旅座の公演は、どこかの街で幕を開けます。

歌旅座にとつての初めましての街は、その公演を終えると友の街へと変わります。久しぶりの街では旧交を温めに、幾度も訪れると、そこは親友の街と言えるでしょう。

そうしていつしか、日本全国が大切な友の街となるよう、「ニッポン全国市町村公演」と銘打って、これからも旅を続けていくのです。

この文を読んでくださった貴方にも、どうか歌の種が届きますように……。

作詞家 北村うづまき

出演 北海道歌旅座 011-623-6680 info@dmj.fm

ニッポン全国市町村公演



ヨシダ・ジュンコ
吉田淳子 (別名: JUNCO)
歌・ピアノ・作詞・作曲
北海道浜益村(現・石狩市)生まれ。06年、北海道の音楽祭でグランプリ受賞。歌旅座の結成を導き、09年に「北海道180市町村公演」、後の「ニッポン全国市町村公演」をスタート。一座の看板シンガーとして活躍中。アジア13ヵ国の歌手が集結した「タイ国王・在位63周年記念コンサート」に唯一の日本代表として出演。



タカスゴ・ナリコ
高杉奈梨子
ヴァイオリン
北海道札幌市生まれ。ヴァイオリン奏者として結成まもない歌旅座に加入。11年にクラシック音楽中心の演奏で「夜想曲(ノクターン)」でソロデビュー。続く「蘇州夜曲」では昭和の名曲を、3作目「海を見ていた午後」では荒井由実(ユーミン)をカバー、いずれも高い評価を得ている。



サクマ・チエ
佐久間千絵
(ザ・サーモンズ)
コーラス・打楽器・ピアノ・アコーディオン
北海道美深町生まれ。実家である農家を幼い頃から手伝いながらピアノを習得、野菜のようにすくすくと育つ。歌旅座に加入して鍵盤楽器を担当。さらには農作業で鍛えられた足腰からほとばしる打楽器のサウンドには定評がある。



アリタ・シュウヤ
有田秀哉
(ザ・サーモンズ)
コーラス・ギター
北海道小樽市生まれ。100年続く老舗美容室の長男。東京の大学卒業後、大手食品メーカーに勤務。同社のタイ王国・バンコク支社に転勤したことをきっかけに、タイ語を習得(奥さんもタイ人)。学生時代に始めたギターをさらに研鑽、ステージを彩る。



シカイ・タロウ
司会太郎
(ザ・サーモンズ)
コーラス・ハーモニカ・フルート・司会進行
北海道日高町生まれ。サラブレッドの聖地で、馬に囲まれて幼少時を過ごす。ただし、父は教員。大学卒業後、北海道の広告会社を渡り歩き、音楽会社に転職して歌旅座と関わる。医者も驚くほどの肺活量を持ち、しゃべりと「吹き物」楽器を担当する。



学生時代 愛の讃歌 りんごの唄 金色夜叉 いつでも夢を 大阪ラブソディー
二人でお酒を 昭和枯れすゝき 真赤な太陽 お久しぶりね イヨマンテの夜...
まだまだ歌うよ、お楽しみに! ●演奏曲は変更する場合があります。